

○三郷地区タウンミーティング会議録(概要)

日 時:平成 30 年 8 月 4 日(土)

午前 10 時から午前 11 時 30 分まで

場 所:三郷公民館

出席者:約 35 人

テーマ 1 富山市の財政状況について:財務部

<主な説明事項>

1.平成 30 年度予算について

平成 30 年度の予算総額(当初予算)

①歳入の構成

②市税の構成

③歳出の構成(款別)

④歳出の構成(性質別)

2.本市の財政状況

都市制度について

中核市の人口

中核市の平成 30 年度一般会計当初予算

中核市の標準財政規模(平成 29 年度)

財政力指数

財政健全化判断比率等

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」

「種類」

実質公債費比率

中核市の実質公債費比率(平成 28 年度)

中核市の市民一人当たり普通建設事業費と起債残高

合併した中核市の市民一人当たり普通建設事業費と起債残高

将来負担比率

県内自治体の健全化指標

歳入の推移(普通会計決算)

市税収入の推移(普通会計決算)

歳出の推移(普通会計決算)

義務的経費の推移(普通会計決算)

繰出金の推移(普通会計決算)

投資的経費の推移(普通会計決算)

市債発行額・市債残高の推移(普通会計決算)

3.平成 31 年度予算編成に向けて

【財務部の説明に対する質問】

・政令指定都市の要件について

(財務部長)

政令指定都市の要件として、法律上は、50 万人以上の政令で指定する市がありますが、実質的に 70 万人以上で指定を受けることになっております。富山市も 70 万人を超えれば政令指定都市へ移行するものと思われまます。

テーマ 2 住宅防火などについて:消防局

<主な説明事項>

平成 29 年の富山市の火災概要について

防火対策

住宅用火災警報器(奏功例、設置場所、維持管理)

平成 29 年の富山市の救急概要について

富山市消防総合指令情報システム

救急車の適正利用

全国版救急受診アプリ「Q 助」

応急手当と救命曲線

救命講習の案内

【消防局の説明に対する質問】

・全国版救急受診アプリ「Q助」について、パソコンからでも利用可能ですか

(消防局長)

パソコンからでも利用できます。

・高齢者からの救急車の要請における連絡先の確認について

(消防局長)

消防局の通信指令課において 119 番通報があれば、地図情報で瞬時に連絡先の特定ができます。仮に住所がはっきり聞き取れなくても、連絡先の特定はできます。

・携帯電話でも連絡先の特定は可能ですか

(消防局長)

携帯電話は、電波のため 100 パーセント間違いないとは言い切れませんが、今の携帯電話は、GPS機能が内蔵されていますので、ほぼ誤差が無く特定できます。

さらに、付近の建物、お店などの目標となる建物を確認できれば、間違い無く連絡先が特定できます。

また、市境付近において携帯電話からの 119 番通報を他の消防本部で受信した場合は、お互いに転送できるしくみとなっています。

【その他意見交換】

・街灯(道路照明)について、何年ごろまでに全LED化されますか

(企画管理部長)

富山市の道路照明LED化事業については、富山市が維持管理する道路照明の約58,000 灯について、LED化する事業になります。新聞にも掲載されていたと思いますが、既にLEDとして普及しているものは、約7000 灯程度ですが、平成31年9月までに全てLED化にされる予定です。

・三郷校区における水道管の切り替え計画について

(企画管理部長)

水道管の関係の質問につきましては、本日、担当部局は来ておりませんが、上下水道局に伝えまして地区センター等を通してご報告させていただきます。

(【地区センターを通して後日回答】)(上下水道局 水道課 回答)

現在、三郷小学校周辺では、大規模地震等の災害発生時において、避難所に指定しています三郷小学校へ水道水の供給を可能にするため、水道管の耐震化による水道管切り替え(更新)工事を実施しています。

その他の水道管につきましては、公共下水道事業や農業集落排水事業に伴う移設工事を実施していることから、多くの水道管は経過年数が30年以下であるため、三郷地区での老朽化に伴う水道管の切り替え(更新)計画はありません。

また、造成から40年以上経過した水橋肘崎などの団地については、日本海ガスとの共同施工により老朽管の更新を実施したところ です。

今後もこれまでと同様に、水道管の「経過年数」、「管種」、「漏水発生状況」などを総合的に判断しながら、老朽化した水道管の更新を実施していきますので、引き続き、水道水の安定供給に向けた取り組みにご協力いただきますようお願いいたします。

・高齢者の方に対して、災害情報、正確な避難場所の情報が伝えられていません

(企画管理部長)

自然災害について全国でも毎年頻繁に発生しており、規模も大きく、災害の範囲が広がっております。また、今年の西日本豪雨は大変な被害が発生しております。富山市でも同様の災害が発生する可能性もあります。先日も水橋地域に避難準備・高齢者等避難開始の情報を発令しました。携帯電話には情報が届いていたと思われ、防災無線でも情報を出していたと思われ。

富山市でも、市民の皆様へ情報の周知に取り組んでいますが、地域でもお互いに情報を出し合い補完していただきたいです。

今回のご意見は、建設部にも伝えておきますが、市民のみなさまへの周知徹底については、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。

【後日、担当課の建設部防災対策課へ連絡済み】

・封書で「高齢者の交通行動調査へのご協力について」の依頼文が届きましたが、高級な用紙を使用されており、財政が厳しい状況でありながら、経費の無駄遣いだと思われ
ます

(企画管理部長)

「高齢者の交通行動調査へのご協力について」につきましては、担当部局は来ておりませんが、担当の活力都市創造部に伝えます。ご理解をお願いします。

【後日、担当課の活力都市創造部中心市街地活性化推進課へ連絡済み】

・消防団員の増員に対する取り組みについて

(消防局長)

消防団員の減少は、団員の高齢化と併せて全国的な問題となっております。本市はこれまでに消防団員確保対策として消防団協力事業所などの施策を行っています。

消防団員の入団理由は、「自分たちのまちは自分たちで守る」とのボランティア精神によるものと思います。誰かが無理やり強制的に入団させることもできないため、これという特效薬はありません。地域の消防団の方、自治振興会などの役員の方、地域の方における地道な勧誘など、普段からの努力によるところがほとんどかと思われます。自治体からの活動で増員したとの話は、全国でもあまり例がありません。「地域のために、がんばろう」と思われる方の存在で、初めて入団になると思われますし、これが消防団の大原則だと思われます。地域の方による普段からの、雰囲気作りをお願いします。

・水橋地域は人口が減少し、高齢化も進んでいますが、財政が厳しくなりますと、人口が少なく、減少している郊外の地域から財政的措置がされなくなっていくのではないかと、大変心配です

(企画管理部長)

市長にもご意見を伝えまして、しっかりと取り組んでまいります。

・コンパクトなまちづくりの意味について

・富山市は人口が少なく、土地は広く、持ち家率は、全国では高い方であり、この状態を延ばすことが、中心市街地にマンションを建てるよりも良いことであると思います

・鉄道が無い地域におけるバス路線などの公共交通の充実に予算を使用してほしいです

・おでかけ定期券の利用における時間帯延長などのサービス拡充により、多くの方が利用しやすい公共交通にしてほしいです

(企画管理部長)

現在、少子高齢化社会の状態であります。人口減少は、これまで経験が無く、初めて経験することになります。これまでは、右肩上がりで、人口が増えてきた時代でありました。今は人口が減っていく人口減少時代に入ってきています。市長は、人口減少において多くの影響があると話しています。市の財源が苦しくなることも影響の一つです。また、超高齢社会に入ることによって、高齢者対策費、介護保険料などの扶助費のため

に財源が必要になります。市長は、全国的に人口減少の問題が取り上げられていなかった 10 数年前より、人口減少、少子高齢化社会の問題に着目していました。以前までは拡散型のまちづくりを進めていましたが、舵を切り替えて集約型のまちづくりに変えていきました。拡散型のまちづくりを続けていきますと、除雪費、家庭ごみの収集費用、市道の維持管理費などが増え続けます。

中心市街地などを含む徒歩圏と公共交通の沿線を、「串」と「お団子」で言い換えています。それらの地域の人口が市全体に対して 28 パーセントでありましたが、人口を 40 パーセントまで強制的ではなく、誘導しようと考え、その限りにおいて拡散を止めることができれば、経費が節約できるとの考え方で進めています。

特に中心市街地に投資をすることによって、民間が投資を行います。その結果、ご質問にありましたとおり、マンションなどが多く建設されてきます。地価についても上昇を続けており、中心市街地の固定資産税、都市計画税も上昇しています。上昇しました市税を中山間地も含む郊外などに還元できることとなります。このような考え方で、コンパクトなまちづくりを進めています。

また、超高齢化社会になりますと、高齢者の方で自動車の運転ができなくなる人が増えてきます。高齢者の方々も移動しやすいように公共交通を活性化させています。具体的には、富山ライトレール、市内電車環状線の整備、高山線の増発などですが、自動車に頼れない高齢者の方に対して、公共交通を活性化させて移動手段としての取り組みを進めています。

しかし、車を全面否定していることではありません。市内人口の 6 割の方が郊外にお住まいです。そのような方は、車が必要となります。車も利用して公共交通も利用することの限りにおいて、財源も縮減できます。公共交通を利用していただくことによって、二酸化炭素の排出も抑えることができます。このような取り組みなどは国内外から評価をいただき、環境未来都市にも指定されています。今後、人口が減り続けるなかで、30 年後、40 年後においても、富山市が持続した、継続していけるまちを目指し、色々な取り組みを行っています。我々の孫やひ孫の世代に、極力負担を回さない、付けを回さな

い思いで、富山市は取り組んでおりますので、ご理解をお願いします。

・三郷校区でコミュニティバスを運行するために、他の水橋地区で運行実績があります
法人へ運行の委託を予定しており、ご支援をお願いしたいです

(財務部長)

水橋の一部の地域において「水橋ふれあいコミュニティバス」が、運行されています。呉羽地域など他の地域でもコミュニティバスが運行されています。地域のコミュニティバスには地域に負担いただきながら、制度に基づいた支援を市からしております。地域でコミュニティバスが運行されることになれば、市でも制度に基づいた支援をまいります。

「水橋ふれあいコミュニティバス」は、継続的に運行されています。地域の方のご理解とご協力があれば、継続的に運行されると思われれます。

※発言の一部を整理して掲載しています(広報課)